

年金シニアプランフォーラム2022  
老後資産形成と高齢期資産管理の課題

# 老後生活設計の「可視化」に向けた 課題と展望

2022/7/21

第一生命保険株式会社  
谷内 陽一

一生涯のパートナー

**第一生命**



Dai-ichi Life Group

## 年金ダッシュボード(pensions dashboard)とは

---

- 公的年金・私的年金など自身のあらゆる年金情報を一元的に把握できるオンライン・プラットフォーム
- 英国では現在その導入に向けて官民挙げて開発中
- 日本でも政策議論の場で年金ダッシュボードの必要性が言及されつつある

# 英国の年金ダッシュボードの画面イメージ

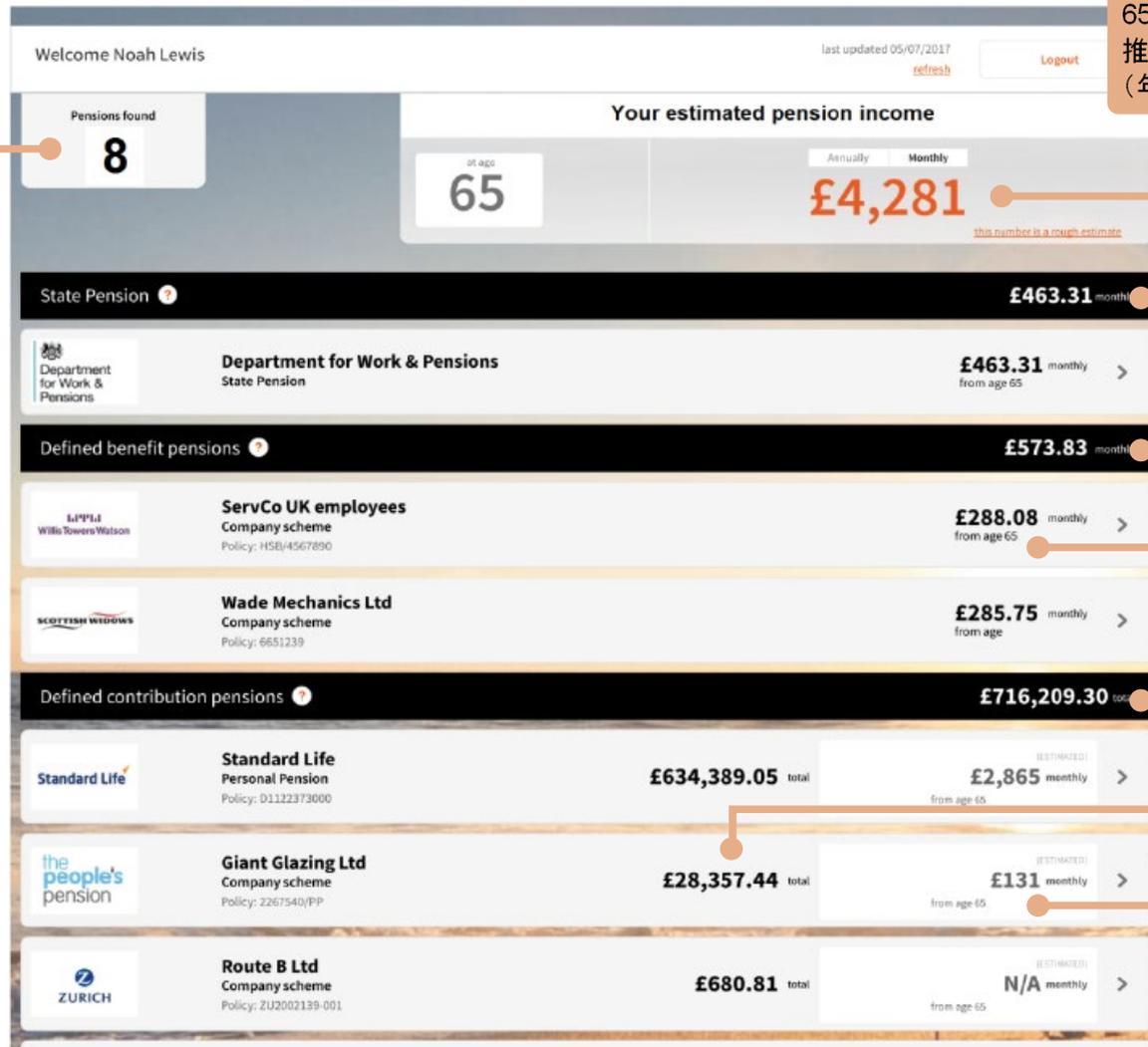
検索された  
年金制度数

65歳時点の  
推計年金所得(総額)  
(年額 or 月額表示)

公的年金

給付建て(DB)  
私的年金  
(企業/制度毎)

掛金建て(DC)  
私的年金  
(企業/制度毎)



年金月額

年金月額(小計)

年金月額  
(企業/制度毎)

資産残高(小計)

資産残高  
(企業/制度毎)

年金月額  
(企業/制度毎)

# 年金ダッシュボード導入の課題

---

- カバレッジ(適用する年金制度の範囲)
- データ規格
- セキュリティ・個人情報保護
- 開発主体・ガバナンス
- 開発・運営コストの負担

言うは易し、行うは難し

# 老後所得の「見える化」のあり方

---

- **カバーすべきは「年金」だけで良いのか**
- 任意性・拡張性の確保
- 既存の年金情報提供ツールとの連携
- 老後資金準備を促すための機能の搭載
- ICT・DXへの対応

# カバーすべきは「年金」だけで良いのか①

## 収入

### 年金ダッシュボードの対象(狭義)

- 公的年金
- 企業年金
- 個人年金
- 退職一時金
- 貯蓄
- 金融商品
- 就労 など

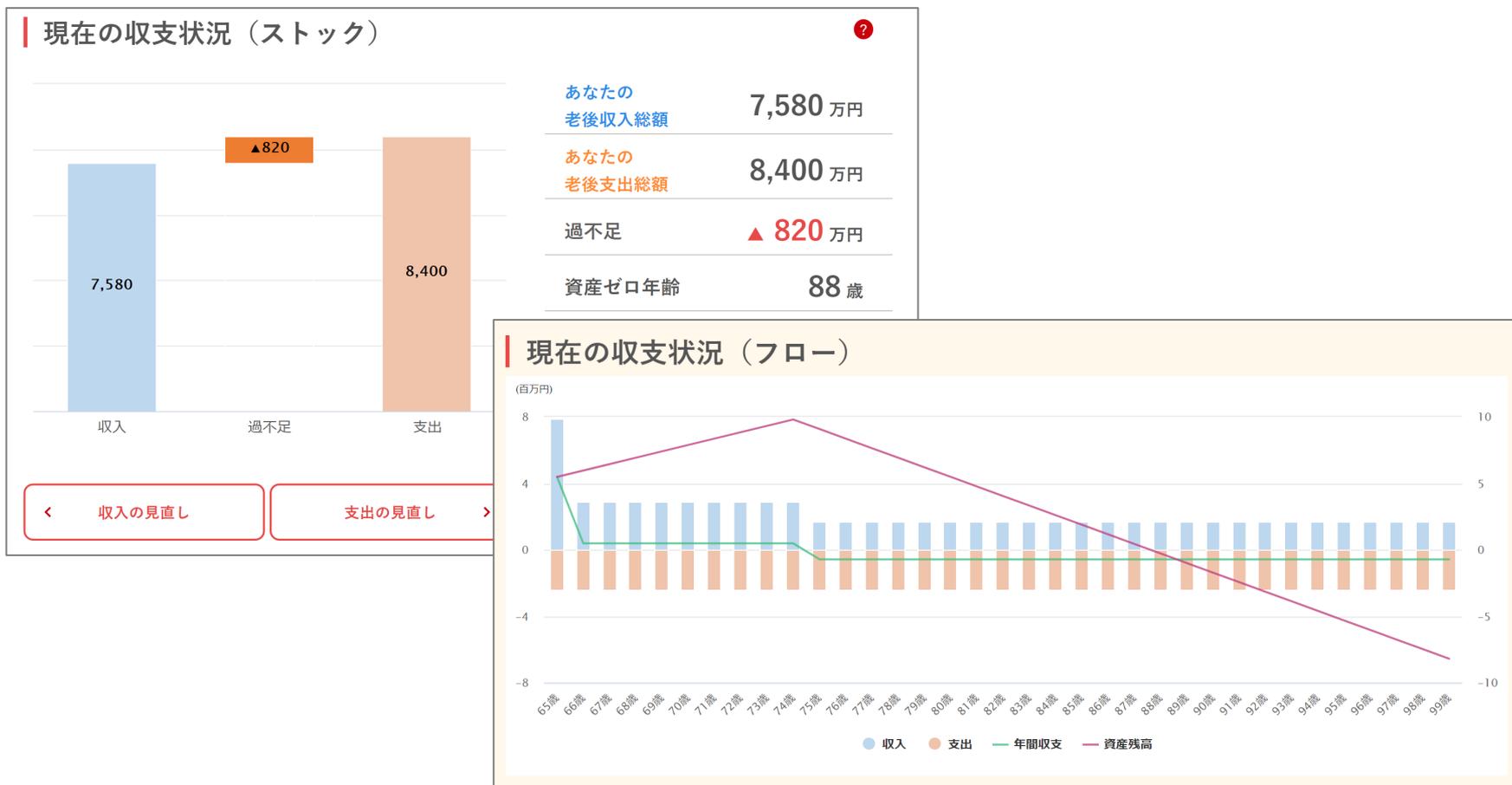
## 支出

- 生活費
- ライフイベント
  - 医療費
  - リフォーム費用
  - 介護費用 など

カバーすべき範囲(理想像)

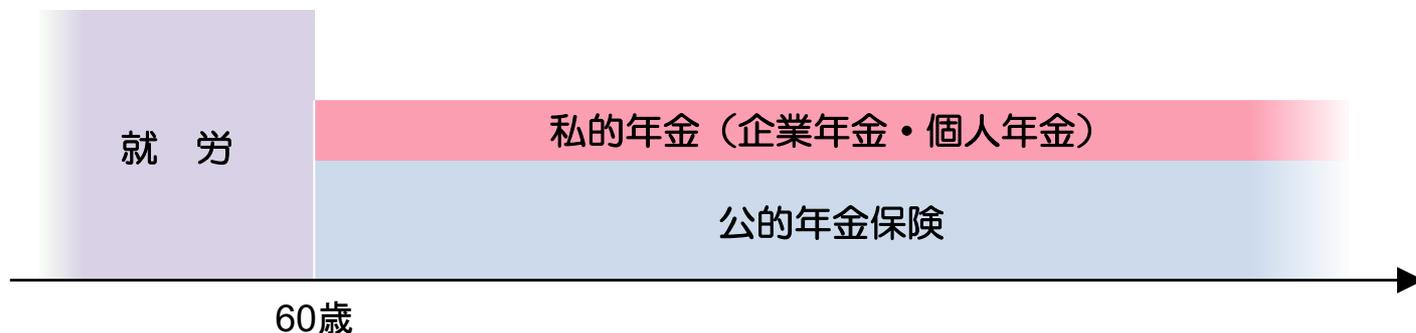
# カバーすべきは「年金」だけで良いのか②

## ■ 収入・支出を踏まえた老後生活設計(イメージ)

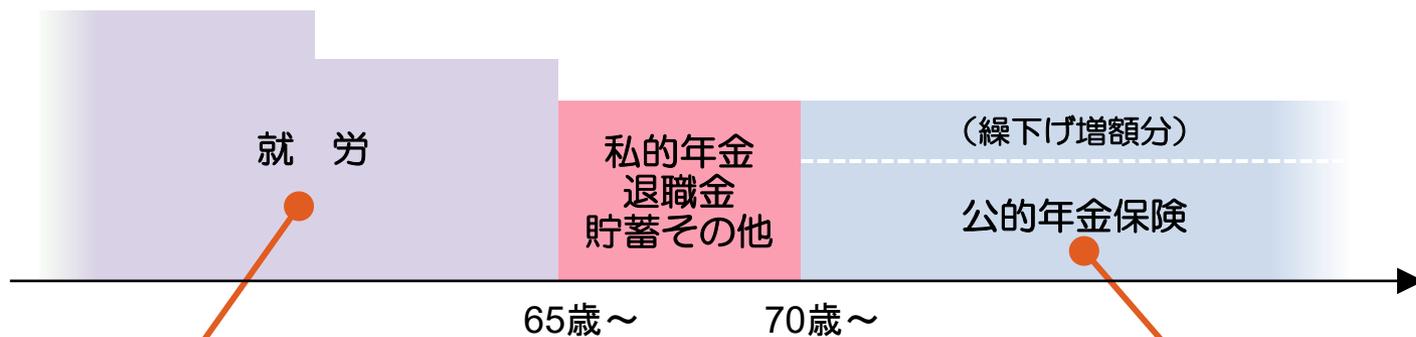


# WPPモデルの可視化①

完投型



継投型  
(WPPモデル)



公的年金保険の受給開始  
までは自助努力でカバー  
(就労・私的年金等)

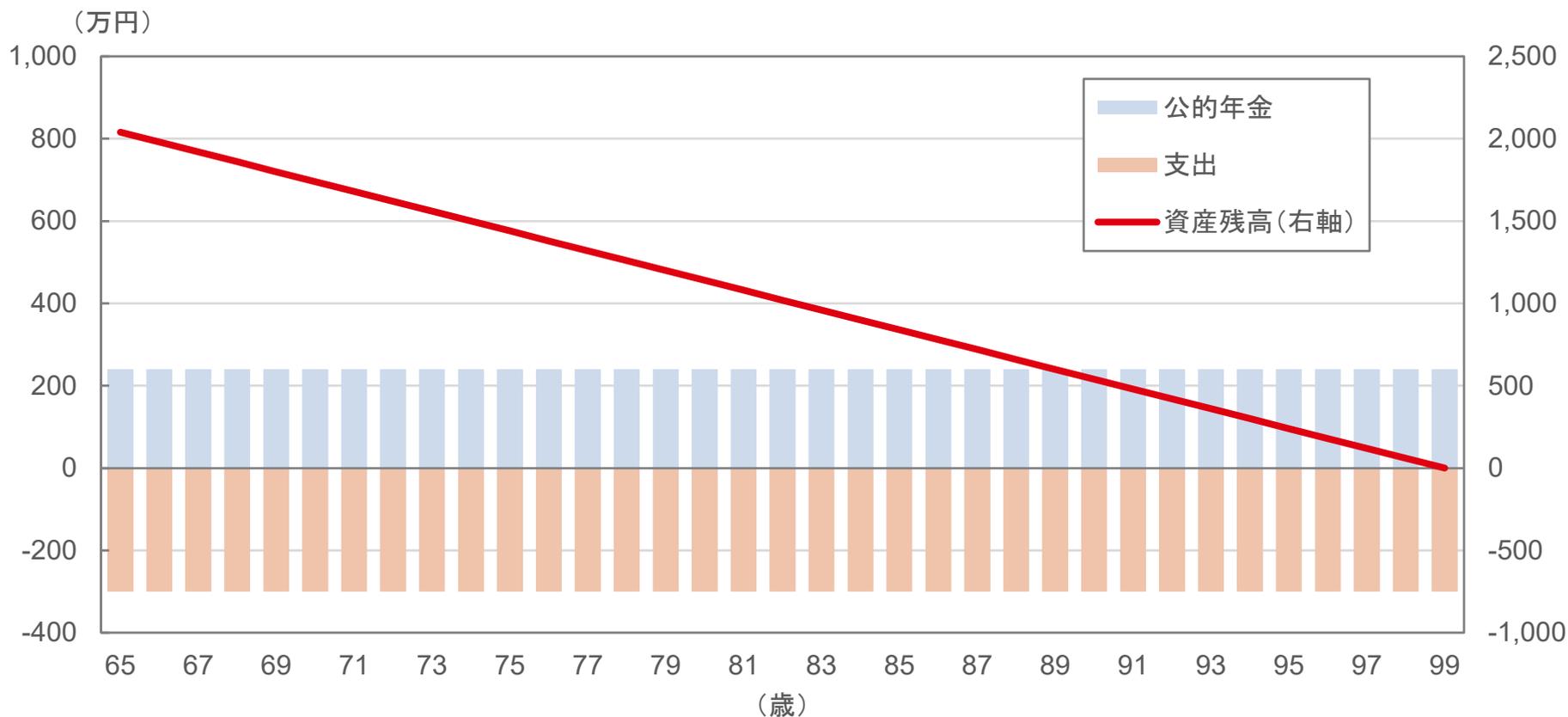
work longer

繰下げ受給

長生きリスクは  
公的年金保険で  
カバー

## WPPモデルの可視化②

### ■ いわゆる「老後2,000万円」の構図

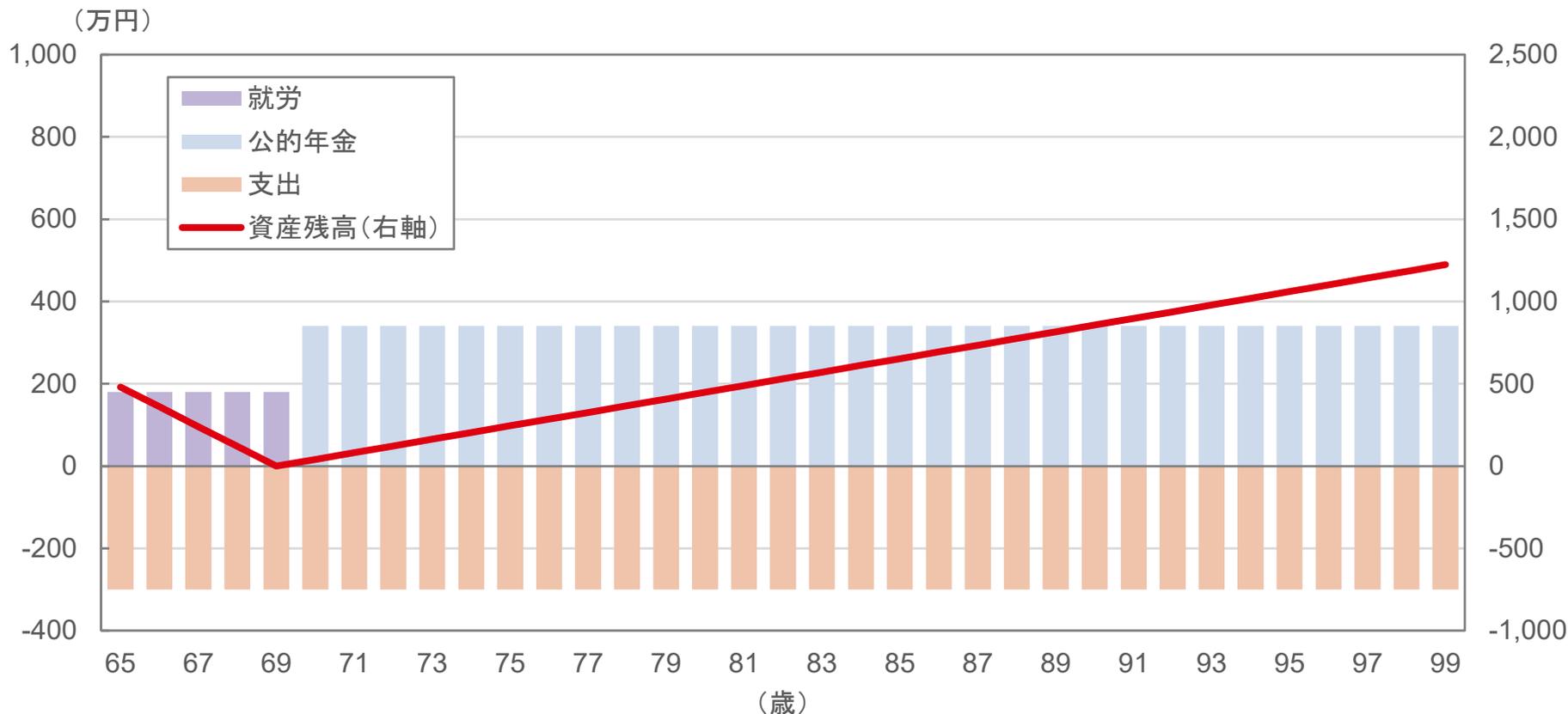


(注1) 収入は公的年金のみで月20万円、支出は月25万円と仮定。

(注2) 期初に2,100万円の資産を保有しているものと仮定。

# WPPモデルの可視化③

■ 就労延長と70歳繰下げ受給により、65歳で準備すべき額は600万円に減少

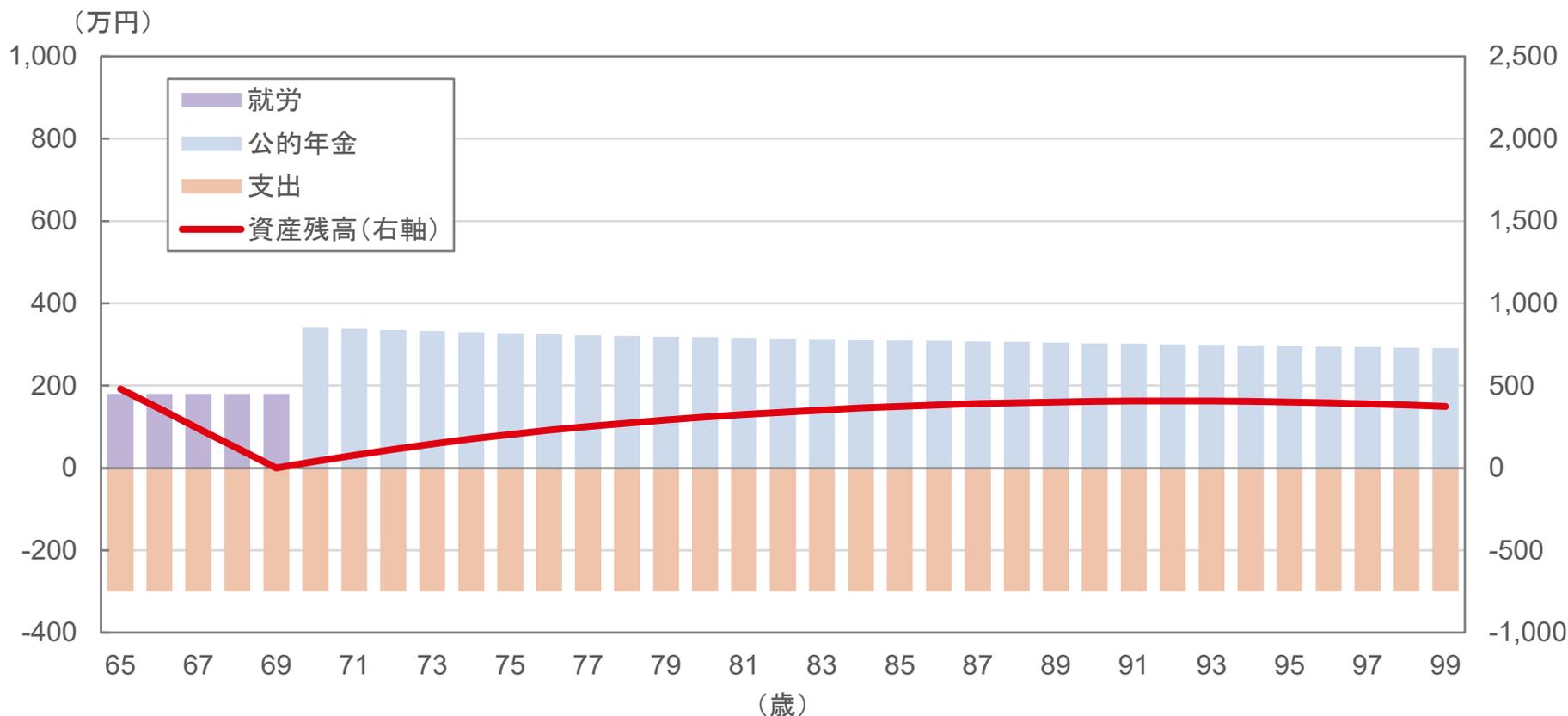


(注1) 収入は就労(65~69歳まで月15万円)および公的年金(70歳以降月28.4万円)、支出は月25万円と仮定。

(注2) 期初に600万円の資産を保有しているものと仮定。また、利回りは年0%と仮定。

# WPPモデルの可視化④

## ■ マクロ経済スライドが発動されても、資産の枯渇は避けられる



(注1) 収入は就労(65~69歳まで月25万円)および公的年金(70歳以降月28.4万円から徐々に減少)、支出は月25万円と仮定。

(注2) 公的年金の減少率は、2019年財政検証における既裁定者(1954年生まれ)の年金額の見通し(人口前提:出生中位・死亡中位、経済前提:ケースV)に基づく変化率を使用。

(注3) 期初に資産は保有していないものと仮定。また、利回りは年0%と仮定。

## 【本日のまとめ】

---

- 年金ダッシュボードの活用は長期にわたる
  - 現役期： 老後生活に必要なとなる金額の「可視化」
  - 引退期： 家計収支の「可視化」
- WPPモデルのように就労と公私年金を組み合わせた老後生活設計を行うためには、年金だけでなく老後のあらゆる収入・支出の「可視化」が必要

**「見える化」はゴールではなくスタート**

一生涯のパートナー

第一生命

---

 Dai-ichi Life Group